

第六回実心実学読書会

日時：9月23日（木、秋分の日）14：00～17：00（日本時間）

作品：**八巻和彦**『クザーヌス 生きている中世 開かれた世界と閉じた世界』

（ふねうま舎、2017.4） 第Ⅲ部第1章*、第Ⅲ部第2章**

* 「西田幾多郎におけるクザーヌスとの出会い」

** 「東アジアにおける〈知恵〉概念の伝統とクザーヌスの〈知恵〉概念
- 〈知恵〉と〈道〉、〈無学者〉と〈愚人〉」

コメンテーター：**山田修司**（東北大学大学院 博士後期課程）

テン・ヴェニアミン（京都大学大学院人間・環境学研究科 研修員）

プログラム

【第一部 90分】

14:00-14:10 八巻さんご紹介、趣旨説明（片岡）

14:10-14:30 参加者自己紹介

14:30-14:50 山田さんコメント

14:50-15:00 八巻さんリプライ

15:00-15:20 テンさんコメント

15:20-15:30 八巻さんリプライ

15:30-15:40 休憩

【第二部 80分】

15:40-16:55 参加者との対話

16:55-17:00 閉会あいさつ、次回予告（片岡）

八巻和彦（やまきかずひこ）さん紹介

1947年山梨県生まれ。 cf. 八巻同族会HP(<https://yamaki-kai.com/newpage2.htm>)

1967年長野県 諏訪清陵高等学校 卒業。 cf.堀内正樹(『“断”と“続”の中東—非境界的世界を遊ぶ』)

1971年早稲田大学第一文学部 卒業。

1974年東京教育大学(現筑波大学)大学院文学研究科修士課程修了、76年博士後期課程中退。

同年和歌山大学助手、1980年助教授。86～88年トリーア大学クザーヌス研究所に滞在。

1990年早稲田大学商学部助教授、1992年教授。98～2000年ドイツ・ボン大学に滞在。

2000年「ニコラウス・クザーヌスの世界像」で京都大学文学博士。

2010～15年中世哲学会会長。11～15年早稲田中学校・高等学校校長。

2018年早稲田大学を定年退職、同名誉教授。

単著：『クザーヌスの世界像』創文社 2001

"Anregung und Uebung - Zur Laienphilosophie des Nikolaus von Kues" Aschendorff Verlag 2017

『クザーヌスの思索のプリズム—中世末期の現実を超越する試み』知泉書館 2019 ほか

編著：『境界に立つクザーヌス』知泉書館 2002

『ジャーナリズムの〈いま〉を問う』早稲田大学出版部 2012

『「ポスト真実」にどう向き合うか』成文堂 2017 ほか

翻訳：クザーヌス『神を観ることについて 他二篇』岩波文庫 2001

L.ハーゲマン『キリスト教とイスラーム—対話への歩み』知泉書館 2003 ほか

八巻和彦さん紹介（趣旨説明に代えて）

「 […] 筆者自身も、憲法が公布された一九四七年生まれであるが、われわれの小学校時代の同級生には、男女ともに「**平和憲法**」の**四文字**のうちのどれか一文字を名前の中にもつ子どもたちがたくさんいた。中には文字通り「平和」君もいたほどである。

[…] 筆写は<未来>に向けてのアイデンティティの再形成として、**東アジア共同体の創設**を**構想**することを提案したい。 […] 国境を越えて、人々が自由に往来してごく自然に交流すること、外国の素晴らしい文化を容易にわが身で体験し、わが目で楽しむことができること、それぞれの地域が得意とする技や産物を提供し合って日常生活を豊かにすること、**とりわけそれぞれの地域や国の将来を担う若者たちが学問や文化で刺激し合うこと**、これらの営みは東アジアの発展に大きく寄与するに違いない。一般に**平和の中で異文化と出会うこと**は、まだ吸収する能力が高い若者たちにとっては大きな刺激となり、それがさらに**豊かな知的イノベーション**をもたらすことが多いからである。 […]

敗戦直後に生まれたわれわれがプレゼントしてもらったような、平和で希望に満ちた未来を、われわれの後にこの国に生きる人々のために用意しておく義務が、われわれにはあるのではないだろうか。「和」の字を名前にもっている一九四七年生まれの一人として、こう強く感じている。」

（『クザーヌス 生きている中世』 第1部第二章「現代日本におけるアイデンティティの分裂」）